

令和7年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

全県の小学校における授業改善及び学習改善を通して、言語活動の質を高め、4技能をバランスよく育成し、児童の英語力向上を図る。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)
(専科教員含む)
(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 英語教育における小中連携の実施の割合が増加
(R4:87.3%⇒R5:89.9%)
- ② 授業における児童の英語による言語活動の割合が増加
(R4:91.5%⇒R5:94.2%)

未だ改善が必要な点

- ① 授業中の言語活動の時間について50%以上の割合は9割を超えているが、4技能のバランスについては引き続き改善の余地がある。
- ② 全国学調質問調査(R5)の結果から、約半数の児童が、家庭学習でICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話したりする練習を行っていない。

2. 要因分析

- ① R2～R5英語教育改善プラン推進事業、R6Yamanashi English Actionにおける授業実践の周知により、児童の発信力向上に資する言語活動の質が改善し、高まったと考えられる。
- ② 各校種の研修会に異校種の英語科教員等も参加できるようにしたことで、校種間連携を意識した授業改善が進んだと考えられる。

①「聞くこと」「話すこと」中心の指導への偏りが見られ、「読むこと」「書くこと」に取り組む時間が確保されていない現状があり、4技能をバランスよく育成することを意識して言語活動を行っていないと考えられる。

②授業中の学習者用デジタル教科書等の活用状況について、家庭学習とのつながりが薄く、音声面での資質・能力の習得に課題があると思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① ② R2～R5英語教育改善プラン推進事業、R6Yamanashi English Actionの実践事例や動画を活用し、各種研修会等を通して「言語活動を通して指導すること」「中間指導（言語面、内容面の指導）の在り方」「ALTの効果的な参画」等についての周知・普及を引き続き図っていく。また、目標と指導と評価の一体化を通して、児童の英語力向上を目指す。

① 県事業・研修会及び総合教育センター研修との連携

子供主体の授業実践推進事業における推進リーダーによる授業公開及び研究会を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられる言語活動の設定やその評価等について学ぶ機会を設ける。教師の指導力・英語力向上について、県内英語専科教員対象研修会等で、中学校へスムーズに繋げることができる「読むこと」「書くこと」について意見交流の機会を設ける。研修会においては、より実践的な学びとするため、マイクロティーチングを実施する。また、小学校教員の新規採用に関わり、英語に関する資格等を有する者への加点措置を引き続き実施していく。

② R7 Yamanashi English Actionオンライン学習会の実施

放課後の時間帯を利用し、全校種の英語教育に携わる教職員を対象に、授業改善について考え、意見交流する機会を持つ。「言語活動の質の向上」「学習者用デジタル教科書の活用」「ALTの参画」等、教職員同士で日々の授業について語り合う場とする。

令和7年度 山梨県 英語教育改善プラン

教師の授業改善を通して、言語活動の質を高め、外部検定試験等の客観的データを基に、4技能をバランスよく育成し、生徒の学習改善及び英語力向上を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 42.2% ⇒ R7: 46%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

R6全国学力・学習状況調査質問調査及び英語教育実施状況調査より
 ①授業で自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われた割合が増加。
 (R5:82.0%⇒R6:88.8%)
 ②授業でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動などが行われた割合が増加。
 (R5:78.3%⇒R6:82.8%)
 ③生徒の外部検定試験等の受験率が向上。
 (R5:31.8%⇒R6:38.3%)

未だ改善が必要な点

①授業中に、即興で自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動が行われた割合は、改善傾向にあるが、学校間での差が大きい。
 (R5:69.4%⇒R6:74.3)
 ②中学3年生でCEFR A1レベル以上を達成した生徒の割合が停滞。
 (R5:42.0%⇒R6:42.2%)

2. 要因分析

①②R2～R5英語教育改善プラン推進事業、R6Yamanashi English Actionにおける授業実践の周知により、生徒の発信力向上に資する言語活動の質やその割合が改善傾向にあると考えられる。
 ③英検IBA(RL)を全公立中学校で実施し、生徒が英語力を試す機会を得たことで、受験率の向上が見られたと考えられる。

①授業で自分の考えや気持ちなどを英語で話したり、書いたりする言語活動に取り組んでいるが、「即興的」に話す活動場面の設定や、授業での英語使用には依然課題がある。
 ②英検IBA(RL)の実施等、客観的に生徒の英語力を見取る機会を得られたが、受験結果を教師の指導改善、生徒の学習改善に生かす視点が不足している。また、普段の授業での学習到達目標の活用（生徒との共有や把握）に対する理解が不十分であることに課題がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②R2～R6英語事業の授業実践事例や、MEXT channelの動画を活用し、各種研修会等を通して、「言語活動を通して指導すること」「授業を英語で行うことを基本とすること」「中間指導（言語面、内容面の指導）の在り方」「ALTの効果的な参画」「系統的な目標と指導と評価」等についての周知・普及を引き続き図っていく。

①県事業及び総合教育センター研修との連携
 子供主体の授業実践推進事業における英語推進リーダーによる授業公開及び研究会及び、総合教育センターの研修を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられる言語活動の設定、その評価等について、学ぶ機会を設ける。事業成果について、放課後オンライン学習会や事業プラットフォームを通して、情報発信していく。

①R7 Yamanashi English Actionオンライン学習会の実施
 放課後の時間帯を利用し、全校種の英語教育に携わる教職員を対象に、授業改善について考え、意見交流する機会を持つ。「言語活動の質の向上」「学習者用デジタル教科書の活用」「ALTの参画」等、教職員同士で日々の授業について語り合う場とする。

③②全公立中学校への英検IBA(RL)の実施
 分析結果を生かし、教師の指導改善・評価改善を進めるとともに、生徒が自分の英語力を知る機会として、生徒の学習改善、外部検定試験受験率及び資格取得の向上につなげる。

令和7年度 山梨県 英語教育改善プラン

全県の高등학교における授業改善及び学習改善を通して、4技能をバランスよく育成し、生徒の英語力向上を確実に図る。

目標

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6実態：47.9% ⇒ R7目標値：52.0%、R9目標値：60.0%)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6実態：24.3% ⇒ R7目標値：26.0%、R9目標値：30.0%)

- 言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

＜英語実施状況調査より＞
 ①授業における生徒の英語による言語活動の実施率（授業の50%以上の時間での実施）が増加した。
 【59.1% (R4) ⇒ 64.8% (R5) ⇒ 72.8% (R6)】
 ②求められる英語力（CEFR B2レベル相当以上）を有する教師の割合が増加した。
 【73.3% (R4) ⇒ 81.4% (R5) ⇒ 87.2% (R6)】

未だ改善が必要な点

①言語活動の実施率は増加したものの、言語活動の内訳（全体を10とする）に偏りがある。
 【聞く:1.62 読む:2.62 話す〔やり取り〕:1.76 話す〔発表〕:1.51 書く:2.49 (R6)】
 ②パフォーマンステストの実施率が年度によってばらつきがある。
 【54.4% (R4) ⇒ 37.9% (R5) ⇒ 50.6% (R6)】

2. 要因分析

①R3～5年度英語教育改善プラン推進事業における、発信力向上のための授業改善・学習改善の取組が進んだと思われる。また研究指定校のオンライン・アーカイブ配信や成果報告会により、全県にその取組が波及しつつある。
 ②教師向けの各種研修会を通して、自らの英語力に対する意識が向上したと考えられる。

①学年が上がるにつれて学習内容が高度化し、言語活動の実施率が減少するとともに、言語活動が「読むこと」と「書くこと」に偏る傾向があるため、4技能をバランスよく育成できていない。
 ②全ての学校でCAN-DOリストは設定されているものの、それをベースとした指導と評価の一体化がなされていない。
 【CAN-DOリスト設定：100% 公表：78.4% 評価に使用：70.3% (R5)】

3. 目標を達成するための施策・事業

・「英語教育改善プラン推進事業」のYamanashi English Channelの提案授業動画を研修会等で活用し、言語活動の量だけでなく、その質についても考える機会を持つ。

- 【<https://www.pref.yamanashi.jp/gimukyo/shido/english/index.html>】
- ・英語担当教師に「4県合同自治体連携アライアンス研修会」「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」への参加を継続して督促し、授業改善と指導改善に対する意識の向上を促す。
- ・「グローバルリーダー育成国内留学推進事業」により、グローバルに活躍することが期待される層の生徒の英語力向上を図る。

＜特に改善が不十分だった要因に基づき行う施策・事業＞

①「英語授業改善推進事業」

・研究指定校を指定し、統合的な言語活動を通して4技能をバランスよく育成する効果的な指導と評価のあり方の研究と、組織的な授業改善を依頼する。また研究指定校の取組を各種研修会で各校に周知する。

②全県的な指導と評価の一体化の推進

- ・指導主事による教科訪問において、学習指導案に代えて「授業デザインシート」を作成してもらうことで、指導と評価の一体化に焦点をあてた授業参観と研究協議を行う。
- ・総合教育センターと連携し、「外国語科授業力アップ研修」においてCAN-DOリストの具体的な活用法を示し、系統的な目標と指導と評価の一体化を通して、生徒の英語力の向上を図る。
- ・教育課程研究集会外国語部会で、各校のパフォーマンステストを持ち寄って研究協議を行うとともに、アーカイブ化して各校で活用できるようにする。

山梨県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	50.4	54	47.9	52		56		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	22.8	24.6	24.3	26		28		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	64.8	65	72.8	73		74		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	55	37.9	45	50.6	65		65		65		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	90	78.4	92		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	80	70.3	82		199		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	81.4	82	87.2	88		89		90			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	58	58.2	60	55.6	65		65		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	42	44	42.2	46		48		50		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	75.5	80		83		86		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	95	86.9	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	75	60.8	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	85	81	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	40	37	39	37.3	41		43		45		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	75.1	79		81		83		85			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	60	63.6	70		80		90		100
		達成状況の把握(%)	90	90.9	100		100		100		100